

JCI神戸大会

第25回生コンセミナーから

〈下〉

コンクリート工学年次大会2018(神戸)で開催された第25回生コンセミナーの第3部は、日本コンクリート工学会(JCI)が16年度に設置し、今年3月に活動を再開した「JCI生コン」が主催・岡本享久立命館大学特任教授が生コンセミナー部会(部会長・大野義照大阪大学名誉教授)とジョイントして開催。「生コン」の事業の未来を創る、未来の女性従業員を育てる」をテーマに、生コン業界における職場環境の具体的な改善策や今後のイメージ戦略の方向性を討議した。

生コン業界の現状とこれからの目指すべき未来展望③製造システムのイメージと未来展望の女性技術者の活躍の場を広げるためのJCI改革の3件の話題提供があった。

① 生コンクリート製造業の調査研究成果をもとに、生コンクリート製造業の現状とこれからの目指すべき未来展望③製造システムのイメージと未来展望の女性技術者の活躍の場を広げるためのJCI改革の3件の話題提供があった。

② 二社長(大阪広域生コンクリート協同組合の小学生以下の子どもを対象とした絵画コンクールとアジター車トラムを活用した最優秀作品の揭示、香川県生コンクリート工業組合などが開催している高校生による「コ

軽い試験器「前提に」

障壁なく取り組み提案

① 二社長(大阪広域生コンクリート協同組合の小学生以下の子どもを対象とした絵画コンクールとアジター車トラムを活用した最優秀作品の揭示、香川県生コンクリート工業組合などが開催している高校生による「コ

② 二社長(大阪広域生コンクリート協同組合の小学生以下の子どもを対象とした絵画コンクールとアジター車トラムを活用した最優秀作品の揭示、香川県生コンクリート工業組合などが開催している高校生による「コ

③ 学問があるのか、よく調べられていて、強いというイメージはない。殺伐とした風情、他に選択肢がないから仕方なく使っているイメージなど、結構ショックな答えもあった。イメージアップに力を入れていかなく

てはならないが、ヒントとなるのは滋賀県・近江商人の「三方よし」の精神ではないか。生コンの立地条件のよさを最大限に生かして、技術の「見える化」、女性の進出誘導、地産地消などを進めることで、売り手よし、買い手よし、世間よしのイメージ展開を図るべきとした。

が載ると13キ。これらは、女性を含め多様な人々の参入を阻む障壁となりうる。今後に向け、三つのステップを提案したい。第1段階の「試験器の軽量化」では労力の軽減を図り、第2段階「各種試験方法の抜本的改革」では必須ではない業務・作業の撤廃を目指す。第3段階で「性能規

器を使い続けるより生産しつかりとした原案作成委員会を組織すれば生コンのJCIは変えやすくなる可能性がある」とアドバイスした。

続いて、友澤史紀東京大学名誉教授は「現行の基準にある数値に縛られ過ぎ。数値の多くは目安であり、どのような考え方に基づいたものなのかを判断しなければならない。必ず守らなければならない数値もあれば、場合によっては他の対策を取ることで厳密に考える必要のなくなる数値もある。女性の活躍に関しては、男女の違いをとらに強調する必要はないと感じた。どちらも自分の持ち場で責任を果たせればそれでよい。試験器等を軽量化することも当然の話。コンクリート分野の進歩の遅さが表れている」とコメントした。

